

持経宿・来宿者の対応と薪運搬及び薪置場棚作り他

◇ 実施日：平成26年5月5日(月)小雨～6日(火)晴

◇ 参加者：村吉光夫、前田 正、生熊敏男 計5名。

私と生熊さんは、5日～6日の参加で、5日はあいにくの小雨で、生熊さんの借りてくれた軽トラックに、生熊さん宅裏山の木を伐採した雑木を生熊さんが薪にした薪と私の用意した棚材料及び児嶋さん寄贈の発電機を積んで満車で持経宿へ。

10時前に小屋に着くと村吉さんが汲んだ水タンクが何個も置いてあり、その水で本格的なコーヒーを飲まして貰う。

村吉さんは、小屋西側の屋根と桁下の隙間に板を嵌め込み雨・雪の吹き込みを防いでくれていた。この隙間は、囲炉裏で薪を燃やした時の煙抜きで、先般の薪ストーブの設置により、塞ぐことが出来る様になった。

雨具を着用し薪置場の薪を全部外に取り出す。やはり一番下は腐っていた。上段は今まで高過ぎて利用しづらかったので、20cm程低くして奥行も約80cmにする為に、持って来た棚板を切り、使い勝手を良くした。

先般設置したストーブは、薪を多く使用するため、今回急にやることにした。薪の長さは約35cmまでストーブに入る。

午後からは、生熊さんはトユ掃除をしてくれる。

本日は雨のため作業を早めに終えて夕食の準備をする。

今日の来宿者は、ドイツ人の女性(本宮在住で外人客のガイドをしている)と名古屋の男性の二人で、二人とも修験者である。

児嶋さんの発電機をテストし点灯しても見たが、全部で5人の宿泊者なのでラタンにする。

6日早朝より来宿者二名は、本宮、釈迦ヶ岳へと出発して行く。私達は、棚作りの残った作業、村吉さんは登山者が迷った言った証誠無漏岳の奥八人山への分岐を見に行かれる。

やっと薪置場の棚が出来あがり、生熊さんにも手伝って貰い薪を収納する、少しは使い勝手が良くなりスッキリとした。

生熊さんは、トユ掃除をしたので水槽も掃除してくれるが、栓がされて無いと言う。小屋の中を探して栓を見つけ栓をする。

村吉さんは、便所の飯の看板を作ってくれる。

便所の汲取りは、生熊さんに確認してもらおうと大丈夫とのこと。簡単な昼食を食べて下山する。(前田 記)